認知症対応型共同生活介護事業所　あそかのもり　1階

（別紙4）　　2025　年

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人　アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　あそかのもり　1階		
所在地	佐世保市松瀬町1171番地１		
自己評価作成日	令和 7 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和7年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日常動作を通して四肢の筋力低下の予防を図り、レクリエーションや日常の交流を通して、認知機能の低下予防に努めている。
併せて一人ひとりの状態に合わせたケアの実施や、個別作業拡大の工夫に取り組んでいる。
入所者同士の交流を積極的に行うことが出来る環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は母体法人の広大な敷地内に立地し、緑豊かな自然環境に恵まれた高台に位置している。法人の創設者の思いが、「笑顔と礼儀。愛情と真心」の理念と共に、脈々と引き継がれ、特徴的な各ユニットのテーマカラーにて、理念に基づく年間目標を掲げている。管理者と職員が理念を理解し、接遇マナーも行き届き、利用者の思いを大切にした介護を実践している。職員の笑顔での声掛けや無理強いしない支援は、利用者の穏やかな表情に繋がっている。職員は担当持ち回りで研修を行い、日頃の支援姿勢や対応に活かすとともに、介護計画では課題分析を重ね、家族と情報を共有している。利用者が外出や行事時に化粧や装いを整えるなど、本人の楽しみを大切にメリハリのある暮らしを支援している事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2／3くらいの
			3. 利用者の1／3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2／3くらいが
			3. 利用者の1／3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2／3くらいが
			3. 利用者の1／3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2／3くらいが
			3. 利用者の1／3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2／3くらいが
			3. 利用者の1／3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2／3くらいが
			3. 利用者の1／3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2／3くらいと
			3. 家族の1／3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2／3くらいが
			3. 職員の1／3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2／3くらいが
			3. 利用者の1／3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2／3くらいが
			3. 家族等の1／3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に理念の周知を図ると共に、利用者には日々の生活を健やかで楽しく過ごして頂けるよう、ケアの提供、向上に努めている。	理念「笑顔と礼儀。愛情と真心」を管理者と職員は常に意識しており、接遇マナーが行き届き、笑顔で支援している。また、各ユニットで年間目標を掲げ、利用者のペースや習慣等に配慮したケアの実践で、利用者の落ち着いた穏やかな表情が確認できる。新入職員には管理者が説明を行い、周知を図っている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多くの関わりはできていないが、地域の幼稚園や保育園の児童を呼んでお遊戯を観たり、年１回の民生委員による清掃ボランティアを受けながら、できる範囲でつながりを持っている。	事業所は、自治会長、民生委員、消防団長などから地区の情報を得ている。法人が2ヶ月毎に開く“あそかのもりカフェ”には職員が参加し、地域住民の相談を受けるなど交流の場となっている。近くの幼稚園児の歌や遊戯の慰問、高校生の清掃ボランティア受け入れ、スーパーの週1回の移動販売などもあり、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室の開催がなく、地域の方へ情報を提供する機会がなかった。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の開催し、取り組み状況について報告を行い、構成員より頂いた意見や助言を職員間で共有し、サービスの向上に活かせるよう努めている。	年6回、規定メンバーに消防団長を加え運営推進会議を開催している。事業所の状況や研修、ヒヤリハット・事故報告など、質疑応答を交え意見交換を行っている。意見や提案は、議事録の詳細な資料で確認でき、家族に報告している。意見から鏡による不穏を防ぐ環境整備を行うなど、サービス向上に活かしている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、管理者を通して日頃より協力頂いている。	市との連絡はメールやFAXが中心であり、不明点があればその都度問い合わせ、必要に応じて窓口にも出向いている。市主催の研修は主にオンラインで参加している。包括支援センターとは、近況の情報共有を行い、市社会福祉協議会の金銭管理や成年後見制度を活用するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会やカンファレンスを行い、拘束をしないで安心して暮らせるように支援に取り組んでいる。	身体拘束等の適正化の指針を整備し、検討委員会を運営推進会議内で開催している。職員の研修は、手引書を利用し身体拘束、虐待防止のテーマをあげ、実施している。玄関の施錠も夜間のみである。車椅子用の安全ベルト使用は、家族の同意を得ており、解除に向けた検討を重ねている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、職員全員で知識や倫理を共有して、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催し、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入所するにあたっての説明を十分に行い、理解、納得したうえで同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に意見・要望箱を設置したり、電話や面会時に直接聞くなど、適宜対応を行っている。	利用開始時に外部相談窓口の説明を行い、家族へは毎月、写真満載の花だよりを送り、電話で状況を伝えている。面会は居室で可能であり、職員は家族の訪問時や電話で意見や要望等、聞いている。敬老会や誕生日会などイベントは、家族へ案内も行っている。家族や利用者の意見は、外出先や活動内容に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の介護会議や、その都度意見や提案を聞き、管理者から代表者へ伝えたり、直接話せる職員会議を毎月開催するなど、意見や提案を反映させる機会を設けている。	職員は、日々の申し送りやフロア会議にて意見を伝えている。また、管理者は毎年職員に対しストレスチェックを実施しており、必要時は面談を行い、健康面やメンタル面の改善に努めている。車椅子やセンサーマットの購入、パソコンの増設、和室の修繕など、意見の反映は働きやすい職場環境に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスチェックや健康診断を行い、心身の健康保持に努めている。また、必要時は個人面談を行い、働きやすい環境つくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画による提示や、研修案内をその都度提供し、希望者が参加できるように申し込みを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などへの参加を通して意見交換を行い、自施設のサービスの質の向上に活かせるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や入所後に話を聞き、安心を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や契約時、面会毎に話を聞き、要望を取り入れることが出来るよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時や事前調査時に、その時の状況に合わせて必要なサービス導入を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況に合わせてできる家事をお願いし、役割作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係が希薄にならないよう、定期的な面会や外出、嗜好品の差し入れ等を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、友人や知人との関係が途切れないよう、携帯電話の使用や面会の許可を行っている。	コロナ以降、友人知人の訪問は少なくなっているものの、教え子の訪問などがある。家族の協力を得て外出したり、本人が会いたい人には、来訪をお願いしている。利用者は移動販売を楽しみにしており、編み物や書き物、新聞の購読、携帯電話での家族との通話など、入居前の生活習慣を続けられるよう、職員が支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所後他の利用者との関わりを観察し、交流しやすい場の提供や、必要時は他階への移動を行いながら、過ごしやすい環境が提供できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があった場合は適宜対応している。また、再入所の相談があった時は、ケアマネージャーを通して経過のやり取りを行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月ごとのモニタリングを行い、思いや希望、意向の把握に努めている。	一日の過ごし方はその都度尋ね、難聴の利用者は、筆談にて思いの把握に努めている。知り得た情報は、ケース記録にタブレット入力し、基本情報アセスメントへの追記や、書類の差し替えを行っている。日に2回の歩行訓練や、帰宅したいという希望には、管理者が散歩やドライブに誘うなど、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や契約時、入所後に話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子や気付きを、申し送りやフロア会議にて共有し、現状の把握や問題点の解決方法を話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族へ聞き取りを行い、担当者会議を開催し、現状に合わせた介護計画の作成を行っている。	契約時に事前調査を基に介護計画を作成し、入居はカンファレンスやモニタリングを通じて計画を見直している。家族の面会時、担当者会議を開き、利用者の現状を踏まえた課題分析結果を家族と共有し、介護計画へ反映させている。急変時は、主治医や看護師の意見を取り入れている。計画は、本人・家族の了承を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の勤務者が個別記録を記入し、申し送りなどで共有を図っている。必要があれば適宜計画の見直しに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに合わせて、できる範囲で支援を行っている。また、必要時はフォーマルやインフォーマルのサービスを取り入れるよう、努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週地元スーパーへの嗜好品の依頼や、2か月毎の運営推進会議での提案を受けながら、できるだけ安全で豊かな暮らしを提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の選定を行い、往診時や緊急時に連絡を取りながら、適切な医療が提供できるよう努めている。	本人の希望を大切にし、かかりつけ医の継続受診も可能である。往診や緊急時対応が必要となった場合は、協力医を紹介し、適切な医療が受けられるよう支援している。歯科の往診や歯科衛生士による口腔ケア指導も実施している。専門診療は、管理者が受診介助を行い、対応できない時は家族が支援し受診結果は連絡を取り合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りや緊急時の連絡により、看護師の判断でかかりつけ医に相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入所中の情報を提供している。また、病院の看護師やソーシャルワーカーと情報交換を行いながら、現状把握や退院後の受け入れについての検討を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人や家族と話し合い、事業所でできることや緊急時に望む治療についての対応を共有している。	重度化に関する指針をもとに、事業所では看取りは行わないことの説明と、緊急時、家族がどのような処置を望むかを確認しあい、同意書に署名を得ている。重度化した場合の選択肢として、法人内介護施設や医療機関への搬送もあるが、家族の望みを受け入れ、主治医と相談して事業所で看取り支援を行った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の勉強会や都度の事例を通して手当や対応について指導を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に施設内での訓練を、マニュアルに沿って行っている。また、年に1回は地域の消防団や消防署立会いのもと、訓練を実施している。	事業所はBCPに基づいて訓練を実施し、内容を見直し改善している。消防署の助言を受け、立地上の特性から自然災害時の孤立に備えて備蓄や対応を整備している。助言内容は一覧にまとめ、職員で共有している。日々の安全点検チェック表による確認や毎月の避難訓練、法人全体の訓練も実施している。ただし、訓練未経験の職員がいる。	訓練内容やマニュアルの情報共有も重要であるが、実際に訓練に参加し、経験を積むことが望ましく、今後は全職員が経験できるよう期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間の勉強会において尊厳やプライバシー保護について学び、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応に努めている。	職員は、人格とプライバシーを尊重するため、接遇研修を実施し、寄り添う個別ケアを行っている。トイレ前の目隠しやさりげない介助で羞恥心に配慮し、利用者の誇りを守っている。職員は、敬語や柔らかい表現で雰囲気づくりに努めている。個人情報に関する書面は事務所で保管し、職員の守秘義務も周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を聞き、できるだけ自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で希望を聞きながらケアの声掛けを行い、自己決定してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の決定やメイクアップは本人に任せ、介助が必要な時や季節に合わない服を来ている時等は、声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの決定はできないが、嗜好品の注文を行ったり、配下膳は一緒に行っている。	事業所は主菜・副菜を外部業者に委託しており、今年度は利用者の食事の様子や献立内容から業者を見直し、食事への満足度が高まっている。日々の配下膳の手伝い、エプロン姿でのおやつ作りなど、家庭的な雰囲気づくりに努めている。季節行事では法人施設の厨房から特別献立があり、食を楽しむ工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を記録し、不足している時は補食で対応するなど、一人ひとりにあったケアを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンの把握や声掛け、状況に合わせて用具を使用することで、自立に向けた支援を行っている。	職員は、さりげない声掛けで様子を伺い、トイレでの座位排泄支援を行っている。排泄チェック表をもとに支援状況を共有し、利用者の排泄の自立を支援している。パッドの使用やサイズ見直しでは、利用者のプライドに配慮した対応を検討している。布パンツの使用やトイレでの排泄回復を支援し、不安を軽減して快適に過ごせるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動の声掛け、腹部のマッサージなどを行い、必要時はかかりつけ医と相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の構造上、入浴日は決めないといけないが、一人ひとりの意向に沿った実施に努めており、無理強いはせず曜日をずらして他階や自階で入浴できるよう調整したり、シャワー浴や清拭等状況に合わせて支援している。	入浴日は週2回としている。入浴拒否がある場合は、声掛けや時間を変え、無理強いはしない支援に努めている。状況に応じて、日を改め別ユニットでの対応を検討や、シャワー浴や足浴など柔軟に対応している。浴槽にゆっくり浸かり、心地よく過ごせるよう入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中表情が優れなかったり、閉眼してきつそうにされている時は自室で休んでもらったり、夜間不眠が続くような時は主治医に相談し、内服薬を処方してもらうなどの対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配布された処方薬のチェックやセッティングを通して把握したり、新薬の時は看護師より注意事項を伝えている。 服用後は状態に変化がないか観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別レクリエーションや作業等を積極的に取り入れたり、嗜好品を購入し提供する等、役割や楽しみを持って生活できるよう、声掛けや支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や家族との外出、施設外の散歩、周辺の掃除など、戸外で過ごせる時間を取り入れ、支援している。	事業所の敷地や隣接する施設の園庭を散歩している他、帰宅願望など不穏時には、ドライブに出掛けている。また、法人の車輛を借り、海きらら、森きららなど、みんなで外出を楽しむ機会を設けている。今年度は母の日、父の日の外出など、外出機会の充実を図っており、今後もさらなる実施を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配が強い利用者には、家族の同意を得て小銭入れを持たせたり、外出時に自分で買い物できるような時間を組み込んだりして、自分で使える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の意向に沿って、携帯電話の所持や施設からの取次は行っている。また、手紙等郵便物や届け物は本人に手渡し、飲食物は職員で管理して、希望時に提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定時に清掃や換気、温度調整を行ったり、季節に合わせて飾り付けを行い工夫している。	リビングには季節の花を飾り、広い窓からの眺望は絶景である。周囲の山や畑では、季節を感じられる。合唱やビンゴカードゲーム、体操など体と脳の機能低下を防止するよう工夫しており、ソファで自由に過ごし、中にはノートに書き物をする利用者もいる。定期的な掃除と換気で清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子、テーブルの配置を工夫し、思い思い過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に写真や使い慣れた小物を設置してもらったり、衣替えも相談しながら行い、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。	明るい居室はカーテンで光を調節し、ベッドや家具の位置も各々である。家族の写真、猫や犬のぬいぐるみ、花籠、大きな見やすい時計、テレビ、ラジオ、椅子など馴染みの品物が持ち込まれ、個性がある。掃除や換気も行い清潔である。ただし、ドアなどに貼られた目隠しの紙に劣化が見られ配慮が必要な状態である。	利用者が、馴染みの中で寛ぎ、一日の疲れを癒す居室であり、見た目にも配慮し、ドアに貼る物を工夫、検討することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館放送で食事や運動、レクリエーション等を知らせることで時間の感覚を身につけたり、トイレのドアに張り紙をして場所の把握ができるようにしたりと、出来るだけ自立した生活ができるよう工夫している。		

認知症対応型共同生活介護事業所　あそかのもり　2階

（別紙4）　　2025　年

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人　アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　あそかのもり　2階		
所在地	佐世保市松瀬町1171番地1		
自己評価作成日	令和 7 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和　　年　　月　　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設での暮らしを可能な限り継続していただけるよう、お一人お一人のペースを大切にするとともに、丁寧なケアの提供を心掛けています。
また、馴染みの関係、信頼関係を築けるよう関わりを増やし、コミュニケーション力の向上を図るよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に理念の周知を図ると共に、利用者には日々の生活を健やかで楽しく過ごして頂けるよう、ケアの提供、向上に努めている。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多くの関わりはできていないが、地域の幼稚園や保育園の児童を呼んでお遊戯を観たり、年1回の民生委員による清掃ボランティアを受けながら、できる範囲でつながりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室の開催がなく、地域の方へ情報を提供する機会がなかった。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催しており、活動内容及びヒヤリハット・事故報告等行っている。また、構成員の方々と意見交換を密に行い、ケアの改善やサービスの向上に努めている。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度変更、事業所運営に関して、不明な点はその都度問い合わせ、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会やカンファレンスを行い、拘束をしないで安心して暮らせるように支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修や事業所内での勉強会を通して知識を深め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修等を通して、理解、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、制度変更等、その都度説明を行い、しっかりと同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	状態変化時やケアプラン更新時にご家族に連絡し、意見や要望等伺い、ケアプランに反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロア会議、介護会議、法人の職員会議を開催しており、職員の意見に耳を傾けている。必要に応じて業務への反映や見直しを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回のストレスチェック、健康診断などを行い、職員の健康に気を付けている。また一人ひとりの声に耳を傾け、働きやすい職場環境を提供できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップ、知識向上につながるよう、研修への参加を促している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的な関わりはないが、Web研修参加時などに交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後の不安を軽減するために、時間をかけて丁寧にコミュニケーションを取っている。要望を尊重し、信頼関係を築くことで、安心してサービスを利用できる環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にしっかりと説明を行い、不安を解消している。本人の状態やケア方針についての情報共有を徹底している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階でのニーズを適切に把握し、優先順位を付けた対応を行っている。本人やご家族との面談を通して、適切なケアプランを作成し、必要に応じて他の専門機関と連携して、支援体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に過ごす時間を大切にし、生活支援だけでなく精神的な支えになるよう努めている。お互いに信頼し合う関係を築き、安心して暮らせる環境づくりをサポートしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアを進める上でご家族と密な連携を図り、互いに協力しながら最適なケアの提供を行っている。定期的にご家族と会話し、ケアの方針や本人の状態についての理解を深めてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望する場所や活動への参加を積極的に支援している。行事や趣味活動に参加できる機会を作り、充実した日常生活が送れるようサポートしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的なグループ活動やイベントを開催している。コミュニケーションを促進し、互いに支え合う関係を築くことで、社会的孤立を防げるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者やご家族が困った時は、電話での相談やアフターフォローを提供し、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を聞き、話し合い検討することで、本人の思い等を把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、サービス利用の経過を情報収集することで、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人ひとりの状態を確認し、その都度申し送りをしている。また、フロア会議において情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に担当者会議を行い、電話でも家族に聞き取り、本人の希望や意見を取り入れ、現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気付き、変化等を記録し、申し送りで情報を共有し、必要時見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の要望等に対しては、その時の状況に応じて出来る範囲で行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問販売車での買い物支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族などの希望により、かかりつけ医の受診を継続している。体調に変化があった時は看護師に相談し、早めの受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常や気付きがある場合はすぐに看護師に相談、報告を行い、早めの対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、口頭やサマリーによる情報提供を行っている。退院時にもサマリーを貰い、常に協力できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族と方針などを話し合っている。常に医療や他の関係者との連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院と連携を図り、夜間でも緊急時の連絡を受けてもらっている。また、AEDを設置し、計画的に訓練を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災訓練の実施、BCPに基づいた訓練の実施、火災予防のための自主検査表による点検など、災害対策を行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉での声掛けを行い、誠意のある対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意見を傾聴し、自分で決定できるよう助言を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や状況を把握し、出来る範囲で希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時には整髪や希望に沿った衣服の提供、季節にあった服装の助言を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	既定の食事のほかに、希望があれば好みの物を提供している。出来る方には、準備や片付けなども職員と一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中、夜間問わず、水分補給を促している。栄養確保のため、好みに合った補食も提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い、個々に合わせた口腔ケアを実施している。磨き残しがないか確認したり、義歯の管理も行っている。必要時は、歯科による往診も依頼している。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎時記録を取り、排泄の間隔が空いている時は、声掛け誘導により、失敗を予防している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝や定時に寒天ゼリーや乳酸菌飲料を提供し、時には腹部のマッサージを行うことで排便を促している。また、便秘時は看護師に相談し、かかりつけ医の指示のもと排便コントロールを行っている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否や急な予定で入浴できなかった場合、意向を聞きながら翌日以降に入浴できるよう、他階と協力しながら対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向や体調、体力に応じてベッドでの休息を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は職員で管理し、仕分けやセット時に処方内容を確認しながら、理解や把握に努めている。内服薬の変更や臨時処方薬については、申し送りで周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことや得意なことを活かし、塗り絵や計算ドリル、テレビ鑑賞を提供している。また、トレー拭きや清掃、雑巾縫いなど、役割を持たせることで張りのある生活になるよう努めている。訪問販売車での買い物ができるよう、希望の聞いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でなかなか支援できていないが、母の日、父の日の食事会や、密にならない動植物園や水族館でのバスハイク等、外出できる行事を取り入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の心配が強い利用者には小銭入れを持たせている。訪問販売車での買い物や外出先での買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった時は、施設の電話か本人持ちの携帯電話を使用してもらっている。本人宛の手紙は手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは緑が見えており、四季も感じることができる。毎日掃除をして清潔に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でゆっくりしたり、フロアーのソファーに座ってテレビを観たり、外を眺めたりして、ご自分の時間を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものなどを居室へ置いている。手作りのお誕生日カードなども飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室など分かるように表札を付けている。歩行しやすいように、障害物がないようにしている。使用される方は、ポータブルトイレを設置している。		

認知症対応型共同生活介護事業所　あそかのもり　3階

（別紙4）　2025　年

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201926		
法人名	社会福祉法人　アソカ仁寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所　あそかのもり　3階		
所在地	佐世保市松瀬町1171番地１		
自己評価作成日	令和 7 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和　　年　　月　　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の方が、毎日安心して楽しく暮らせるように、笑顔の絶えないフロアーを目指している。また、季節が分かるように窓に花飾りを作成し、楽しんでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

認知症対応型共同生活介護事業所　あそかのもり　3階

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に理念の周知を図ると共に、利用者には日々の生活を健やかで楽しく過ごして頂けるよう、ケアの提供、向上に努めている。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多くの関わりはできていないが、地域の幼稚園や保育園の児童を呼んでお遊戯を観たり、年1回の民生委員による清掃ボランティアを受けながら、できる範囲でつながりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室の開催がなく、地域の方へ情報を提供する機会がなかった。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度の開催で、施設内部の出来事などの報告を行い、意見をいただき次のステップに活かしている。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へ出向いた時など何かあれば相談など行い、常に協力関係にある。		
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会やカンファレンスを行い、拘束をしないで安心して暮らせるように支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開き、日常生活の中で声掛けなど特に注意し、職員同士で虐待にならないように気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会が少なく、職員は十分な知識は持っていないが、管理者が対応して必要な日常生活支援事業や成年後見制度に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に説明をしっかり行い、何かわからないことがあれば後日でも電話対応等行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の方が面会に来られた時や電話での問い合わせ時に、意見や要望があればしっかりと聞き、反映に繋げている。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロア会議、介護会議、法人の職員会議で意見を出し、反映できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回のストレスチェック、健康診断などを行い、働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に、希望者が参加できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流はほとんどなく、出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相手の方の不安、要望、思いに寄り添い、話を傾聴する事で信頼を構築している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設と家族お互いの要望等を把握し、連携を図る事で信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としているサービス及び、ご家族の要望を取り入れる事で、適切なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事は可能な限りして頂きながら、共同生活を送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の必要な支援を共に考え、コミュニケーションを取る事で共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出がほとんど出来なく、面会に訪れる方と話をして頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方で席を隣同士にしたり、職員が間に入り会話をする事で、支え合える様な関係づくりを心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する施設に入所されても、職員に本人の様子を聞いたりしている。 家族から電話での問い合わせがあった時も、対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で一人ひとりの考えや希望を聞き、職員間で共有してケアの向上に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のフェースシートを参考に基本情報を作成したり、ご家族に聞き取りを行うなどして、これまでの生活を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一緒に生活していると生活パターンを把握することができ、その方にあった生活を毎日過ごしていただくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向や意見を聞き、ケアプランを作成し、3か月毎のモニタリングで計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活する中で行っているケアや気づき、工夫を記録に残したり、職員間で共有してサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週1回の訪問販売車での物品購入、訪問理美容の派遣、生活必需品の購入、病院受診、訪問歯科受診などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回運営推進会議を行い、地域の方の貴重な意見を聞き、事業所の運営の参考にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に協力医療機関への変更をほとんどの方は行うが、変更しない方の主治医とも連携を取りながら情報交換を行い、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェック時や日頃の状態に変化があった時など報告して相談に乗ってもらったり、必要があれば受診を行うよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供している。また退院時も看護サマリーを貰うなど、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族への終末期の説明を行い、医療機関との連携を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1度勉強会を行い、各階で職員間の話し合いを行って対応に備えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を行うと共に、職員一人ひとり避難指示が出せるように訓練を行っている。地域の消防団の立会いのもと、指導をもらっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分配慮を行いながら声掛けを行い、トイレや浴室では1人対応で安心してできる環境作りをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をゆっくりと聞くような環境作りを行い、話を聞く中で思いを汲み取りながら、自己決定ができるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度声掛けで希望を聞き、希望に沿って1日を過ごしてもらうように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの洋服を着たり、鏡を見て髪を整えたりと、身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人が役に立っていると思うような声掛けを行い、その日の体調を見ながら配下膳やトレー拭きを行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族持参の飲み物や好みの補食を、一日のなかで提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、出来ない所は介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンを職員間で共有し、声掛けや誘導を行っている。失敗があった時は、羞恥心に配慮した対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日定時に運動を行ったり、野菜ジュースやスポーツドリンク、お茶など味を変えながら水分補給がこまめにできるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各々の希望に沿いながら、声掛けを行っている。拒否がある時はタイミングをずらして声掛けする等の配慮を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々のタイミングに合わせて声掛けを行っている。不眠の訴えがある時はかかりつけ医に相談し、睡眠導入剤を使用するなど、対策を講じている。また、昼夜逆転を起こさないよう、日中はなるべくフロアーで過ごしてもらう等の対策も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配布された処方薬のチェックやセッティングを通して把握している。毎日の状態観察の中で変化があれば、申し送りや記録を通して職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の状況に合わせながら、出来る家事やレクリエーション、個別レクリエーション等へ声掛けや支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事や家族との外出、施設外の散歩など、戸外で過ごせる時間を取り入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に自分で買い物できるような時間を組み込んだりして、自分でお金を使えるような支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が強い時は家族へ電話したり、掛かってきた電話で話してもらっている。また行事の際に取った写真を、毎月の花たよりに載せて郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロアの温度管理、季節の花を飾る等、居心地の良い空間つくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と同じ席にしたり、ソファーを所々に配置し、思い思い過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着けるよう家族の写真を置いたり、物の設置も取りやすいよう工夫して、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活を安全に送れるよう、フロア空間にも気配りし、各々ができることを提供している。		